

村勢要覧 発刊に寄せて

読谷村長 石嶺 傳實

読谷村は、沖縄本島中部、西海岸に位置し、海に突き出た半島状の地形で、人口約4万1千人の「日本一人口の多い村」であります。東には緑の山並みが連なり、西は東シナ海に面し、南は比謝川を境として、北は景勝地「残波岬」に囲まれた美しい自然と豊かな伝統文化が育まれた村であります。

かつての琉球王国時代、中国（明）との朝貢貿易が栄え、そこから多くの文化文物が伝来し独特の文化圏を形成して参りました。それらは「読谷山花織」や「ヤチムン」などの伝統工芸や各地の民俗芸能として継承され、読谷の大地に深く根ざしております。今日では文化村よみたんを象徴する織物と焼物でそれぞれ人間国宝が誕生するまでに発展をして参りました。

さらに読谷村は沖縄文化発展の一翼を担ってきた、琉球三線音楽の始祖として讃えられる「赤犬子」生誕の地としても知られ、歴史と伝統文化の息づく地域であります。

第二次世界大戦で米軍の上陸地点となり、空と海からの猛爆により焦土と化し、一時期は村域のほとんどが米軍基地として接収されておりました。その後、日本復帰まで米軍統治下に置かれ苦難の時代を過ごすこととなりましたが、生まれ育ったふるさと復興のために、血のにじむ思いで重ねた村民の努力は、一步一步着実に実を結び、今日の発展を見たのであります。

そして現在読谷村は、「ゆたさある風水 優る肝心 咲き誇る文化ど 想い合ち」をむらのあるべき姿として、村民とともに協働のむらづくりに取り組んでいます。ここに読谷村の全体的な概要や将来構想を取りまとめ村勢要覧を発刊いたしました。皆様方に本村の姿を理解していただく資料になれば幸いに存じます。



読谷村のあるべき姿

基本理念

村民の平和で幸せな暮らしを願い、読谷村が読谷村らしくあるために、これまでのむらづくりの基本としてきた日本国憲法の理念を遵守し、読谷村ゆたさむらビジョンの基本理念を次のように設定します。

【いちゅいゆんたんざ（（勢いのある読谷））・創造・協働・感動】

【平和・環境】【文化・健康】【自立・共生】の理念を結び、村民自らが創造し、互いに協働し、そして、多くの潤いと喜びを享受し、感動できるむらづくりをとおして、さらに勢い増す読谷村を目指します。

基本目標

フンシ マサ チムグクル
ゆたさある風水 優る肝心
サチフク ハナドウ ウム アワ
咲き誇る文化ど 想い合ち

フンシ ゆたさある風水：素晴らしい環境

サンゴ礁の海、緑濃い森林、そこから発する河川という恵まれた自然、この自然に抱かれた暮らしや活動の場という「素晴らしい環境」を表します。

マサ チムグクル
優る肝心：優しく秀でた心根

争いのない平和な社会、地域福祉や男女共同等の共に生きる社会に向けて、教育や生涯学習、自治活動、社会貢献等をとおして育まれる「優しく秀でた心根」を表します。

サチフク ハナドウ
咲き誇る文化ど：活力ある社会

旺盛な芸能文化、独特な伝統工芸、魅力ある農漁商工、活発な観光・交流等が花開く「活力ある社会」を表し、「ど」と添えて前二句共々目標となります。

ウム アワ
想い合ち：心一つに

フンシ マサ チムグクル サチフク ハナドウ
ゆたさある風水、優る肝心、咲き誇る文化ど、の三句を目標にして「心一つに」（して行こう）と結びます。



読谷村章

「よ」と「み」をつなぎ村民の協力と羽形は村の発展を表し、外円は村民の融和、団結の形で、囲まれた空白はその豊かさと村勢の発展を象徴する。（昭和51年12月24日制定）